

研究機関で雇用する特別研究員-PD等の育成方針

理化学研究所（理研）は我が国唯一の、また世界有数の総合的な基礎科学の研究所として、人類が抱える諸課題に果敢に取り組み、人類社会の持続可能な発展と成長に貢献し、それを通じて日本の信頼を高めることを目指して活動してまいりました。

理研だからこそできる、理研でなければできないことの実現に向けて、2022年に「RIKEN's Vision on the 2030 Horizon」の方針を掲げ、新たな理研の研究人材育成のあり方を提案しています。日本国内はもとより、世界の卓越した研究者たちが集い、つながることで、未来を託すに足る優れた次世代の研究者・技術者が育ち、理研が国際頭脳循環の場として更に飛躍することを目指しています。

理研は、わが国の若手研究人材の育成に先駆的に取り組んできた歴史と実績を有しています。例えば、創造性と独創性に富む優秀な若手研究者が自由な発想で主体的に研究できる場を提供することを目的とする「基礎科学特別研究員制度」は、わが国における若手研究人材育成の先鞭として1989年10月よりその運用を開始しており、これまでに多くの優れた研究者を輩出してきています。また、ポストドクトラルフェローを対象とする基礎科学特別研究員制度以外にも、

- 大学院博士前期(修士)課程・博士後期課程に在籍する大学院生を対象とする「理研スチューデント・リサーチャー」制度
- 大学院博士後期課程に在籍する大学院生を対象とする「大学院生リサーチ・アソシエイト」制度
- 国際連携のもと、学位取得のために理研での研究指導を望む外国籍大学院博士課程の留学生を受け入れる「国際プログラム・アソシエイト」制度
- ずば抜けて優秀な若手研究者を対象に、研究室主宰者として独立し研究を推進する機会を提供する「理研 ECL (Early Career Leaders)」制度

と、若手研究者のそれぞれのキャリアステージに応じた研究人材育成制度を整備しています。日本学術振興会の「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」を通じて理研で雇用する日本学術振興会特別研究員-PD・RPD・CPDに対しても、理研で取り組んでいる上記の制度と整合するかたちで人材育成を図っていきます。

なお、理研では2023年1月26日に「新たな若手研究者育成・支援策の実行について」を公示しました。これは、国際的に魅力ある研究所として、今後さらなる国内外の優秀な若手研究者を集め、育み、未来を担う科学者を支援しようというものです。理研は、日本学術振興会の「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」への参画を通じて、これまで積極的に開拓し取り組んできた若手研究人材育成制度の更なる多様化を図るとともに、我が国の若手研究人材の育成にも、引き続き積極的に貢献してまいります。

「ポストドクター等の雇用・育成に関するガイドライン」(令和2年12月3日 科学技術・学術審議会 人材委員会)も踏まえ、理研における日本学術振興会特別研究員－PD・RPD・CPDの育成方針は以下になります。

- 「優れた研究者の登竜門」としての日本学術振興会特別研究員－PD・RPD・CPDの制度趣旨に基づき、受け入れ研究者によるメンタリングのもとで、自身の自由な発想により主体的に選定した課題に専念できる研究環境を提供します。
- 所内の各種共同利用機器や研究支援、技術支援の利用を通じて、自身が専念する研究課題遂行を加速できる環境を提供します。
- 所内の若手研究者間の交流の機会提供を通じて、異分野の研究者との交流、人脈形成を図り、優れた研究者として雄飛し活躍するために必要となる俯瞰的視野の獲得やコミュニケーション能力の向上を図ります。
- 所内での e-learning を中心とした研修を通じて、研究倫理面はもとより、様々な能力向上の機会を提供します。
- 専従スタッフが提供するキャリアサポートにより、キャリア相談、自己分析、求人情報など、キャリア開発の機会を提供します。
- 育児のための付加的休業の取得を可能とするほか、ライフイベントによる研究中断からの復帰のための研究費支援制度及び、妊娠中、育児中又は介護中の研究系職員を支援する者の雇用経費助成制度を用意し、よりよいワーク・ライフ・バランスの実現を支援します。
- 研究者として必要なリーダーシップスキルや、研究者同士のネットワーク形成・強化を目的とした「研究者リーダーシッププログラム」の受講機会を提供し、PIを目指すためのキャリア形成支援を行います。

以上